

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1893 号

Preoperative predictive model of recovery of urinary continence after radical prostatectomy

(前立腺全摘除術後の尿禁制回復予測モデル)

松下 一仁 (まつした かずひと)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、前立腺全摘除術後の合併症である尿失禁の回復について、術前因子を用いた予測モデルを作成した臨床的に意義ある論文である。

前立腺全摘除術後の尿失禁は QOL を低下させることは知られている。実際には従来の開放前立腺全摘除術では術後 1 年かけて多くの患者が、尿失禁からの回復を経験し、一方、近年のロボット手術時代においてはより早期に尿失禁が改善するようになってきた。しかし、未熟な術者による手術や、患者側要因として高齢、多くの併存症、非常に短い膜様部尿道長によりまだまだ術後尿失禁が遷延する患者が多数いるのが現状でもある。そこで術前から予測モデルで尿失禁が遷延する患者を同定できれば、特にこのロボット手術時代であれば術中の手技の改善を図ることによりアウトカムの改善を期待することができる。さらには術前カウンセリングで患者に治療オプションを提示する上でこのデータを示せば、手術以外の治療オプションについても患者が積極的に検討できる。今後の臨床においてこの予測モデルを用いて、臨床、研究ともに発展していけると考える。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。